

ニュースレター No.98 December 2022

みっく
MICかながわ

MIC かながわはニュースレターを半期に一度、6月末と12月末にホームページに掲載しています。

特集：MICかながわは設立20周年を迎えました 数字で見るMICの20年

今号では、項目別の数字を通してMIC かながわが歩んできた道をあらためて皆さまにご紹介したいと思います。MIC かながわが生まれてから、どのように成長してきたのかを振り返ります。

2002年4月13日に設立総会が開催され、愛称『MIC かながわ』が決まりました。そして横浜駅に近いワンルームマンションに事務所を構え、MIC かながわとしての活動が始まりました。法人設立は7月24日、登記完了は8月2日でした。

MIC かながわのロゴができたのは2010年度です。一般公募し、応募総数は34件。一次審査を経て、当時MIC かながわ事務局で非常勤スタッフとして勤務していた鈴木理恵子さんの応募作品が、総会後の投票でMIC かながわのロゴに選ばれました。



2002年8月からは、外国籍県民医療通訳サービス支援モデル事業が始まり、2003年度はかながわボランティア活動推進基金21（以下「基金21」）で、MIC かながわは県との協働事業部門で対象事業（5年）に選ばれました。医療通訳派遣システム構築事業の始まりです。また、2003年度、2004年度は横浜国際交流基金の国際交流・協力活動助成金でも2年間の助成が決まり、横浜市内の病院に医療通訳を派遣しました。

基金や助成金を財源としている間は、通訳料については医療機関や患者の負担はなしという形で始まりました。医療通訳を使ってもらい、医療を行う上での医療通訳の有用性を医療機関側にも患者側にも体験、実感してもらおうという試用期間を提供したという形です。日本語が母語ではない患者を多く受け入れている医療機関を選び、協定医療機関になってもらえるようお願いをすることになりました。しかし、どこでも喜んで受け入れてくれたわけではありません。神奈川県国際課の担当者とMIC かながわの理事と一緒に足を運び、医療通訳派遣システムの概要や医療通訳の有用性を説明して回り、理解を得ていったという経緯があります。

医療通訳派遣システム構築事業が始まり順調に推移する中、「基金21による5年間の助成が終了した後はどうなるのか」が次の大きな課題となりました。助成終了まで1年というとき、協定医療機関の医療従事者および医療通訳スタッフへ「在住外国人医療サービスに関する調査研究」アンケートを行い、この事業はもうなくてはならないものだということがあらためて認識されました。

＜医療者から＞

- この通訳派遣制度がなくなったら困る。(医師・看護師はそれぞれ80%以上、MSW*は90%以上から回答がありました) *医療ソーシャルワーカー Medical Social Worker
- 緊急の場合の派遣、電話通訳への対応、病院での常駐に対する希望。

＜医療通訳スタッフから＞

- 医師の対応の良さを90%の通訳スタッフが感じている。対応の悪さへの経験頻度は低い。
- レベルの高さを求められる医療分野での活動がボランティアの領域であり続けているのか。
- 医療従事者の意識改革と社会的認知に関する希望

＜この調査から上がった今後の課題＞

1. 財源……基金21終了後の費用拠出先の問題
2. 医療通訳スタッフのレベル維持と向上……「訓練された医療通訳」ということに対する信頼度
3. 医療従事者への働きかけ……医療現場での受け入れはスムーズになっているが、さらなる普及啓発活動の必要性あり。
4. 医療通訳スタッフの身分……ボランティアの域は越えている。しかしプロではない。今後に向けて検討の必要性あり。

＜上記今後の課題にある『1. 財源』の問題について＞

基金21最後の1年である2007年度は、医療機関に1件につき1,000円の負担をしてもらうことになりました。依頼は減るかもしれない、あるいはなくなるかもしれないという不安はありましたが、調査の結果でも見えるように医療通訳はなくてはならないものになっていることがわかりました。医療機関側が通訳料を一部負担した2007年度も、派遣依頼は減少することなく実績を増やしました。

基金21終了後は、原則として通訳費用の部分は医療機関が負担することになりました。医療機関によつては患者負担もありますが、通訳費用全体の3分の1を超えないこととしています。患者が通訳料を全額負担することはありません。医療通訳が入ることで利益を得るのは患者だけではなく、医療機関も受益者であるという考え方が根底にあるからです。

助成金終了とともに縮小あるいは終了してしまう事業も世の中には少なくありません。神奈川県では事業を維持し、さらに実績を伸ばしながら助成金終了後15年が経とうとしています。それぞれの負担の割合など、システムが最初の段階から持続可能な形を作り上げることができていたからなのでしょう。

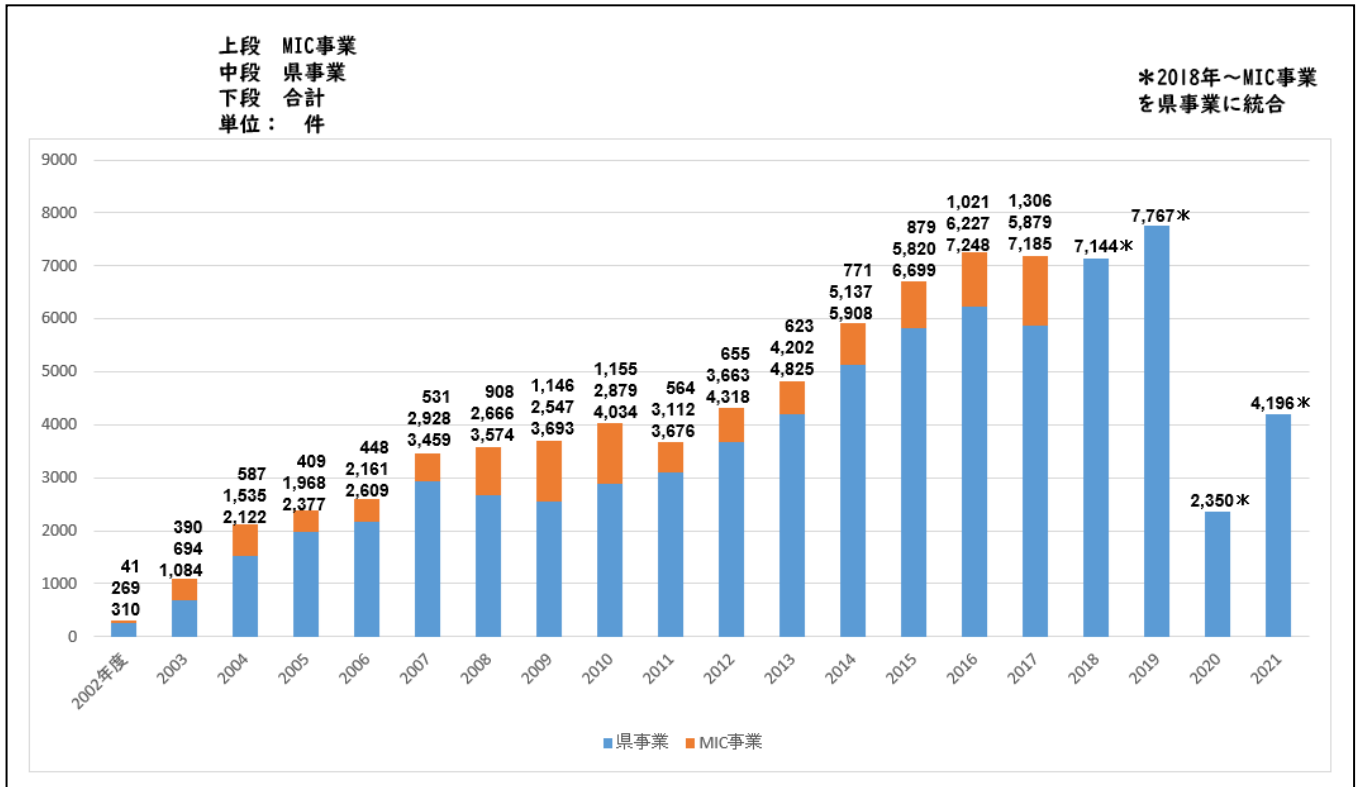
事業を運営していくための経費は、各参加団体が負担しています。県内自治体は当該自治体住民の受診件数に応じて負担金を支払います。医療機関は直接経費である医療通訳スタッフに支払う報償金(一部患者負担あり)と医療通訳派遣依頼の件数に応じての負担金を支払います。そしてMICかながわも応分の負担をしています。

■ 年度別派遣実績

モデル事業、そして5年間の構築事業を経て2008年度からいよいよ医療通訳派遣システム事業が始まりました。医療機関負担1件につき3,000円(一部の医療機関では患者負担もあり)となった2008年度も派遣件数は減少することなく増加しました。この20年間で派遣件数が前年度を下回った年は、2011年度は東日本大震災で外国人住民の多くが帰国したこと、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受診ができなかったり受診控えが起きたことが原因でした。

2017年度から2018年度にかけて件数が減少しているように見えるのは、派遣依頼の受付方法が変

わったことによるものです。



■ ■ 協定医療機関

主に神奈川県内 11 の第二次保健医療圏の中核的な病院／外国人住民が多いところ／県立の専門病院（こども、感染症、精神科など）／市立病院、総合病院／産婦人科がある病院が中心となっています。

2002年8月	6病院
2004年4月	16病院
2007年4月	17病院
2011年4月	32病院
2012年4月	35病院
2016年4月	37病院
2017年4月	36病院
2018年4月	69病院（県内のMIC独自協定医療病院を医療通訳派遣システムに統合したため倍増）
2020年4月	70病院
2022年4月	71病院

この他に、現在MICかながわとの独自協定による派遣先が14医療機関あります。医療通訳派遣システムに加入していない通訳派遣を希望する神奈川県内の医療機関、特定の曜日・時間帯に定例的に通訳を派遣している病院、神奈川県外の病院です。

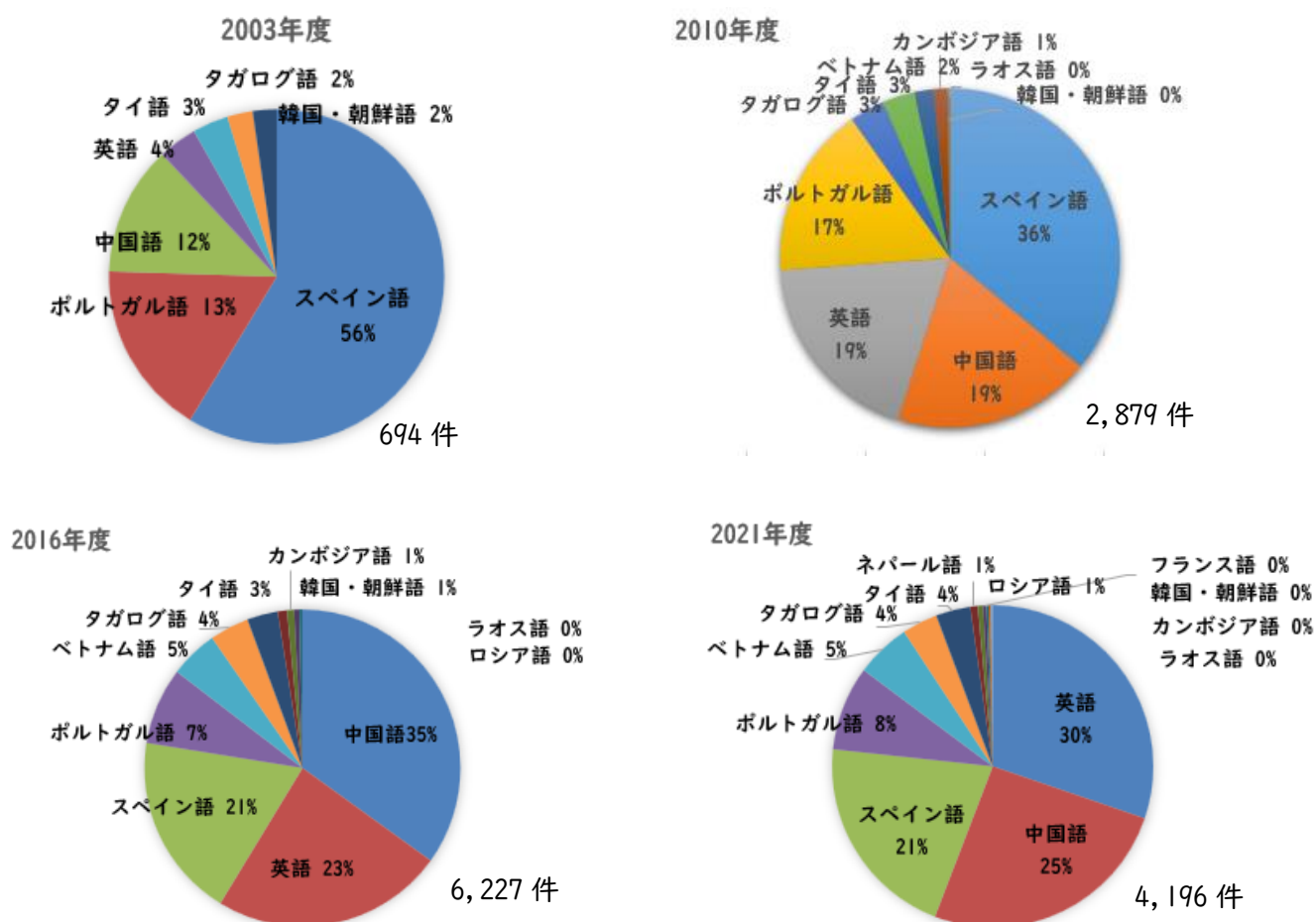
■■■■ 派遣対象言語

2013年度までの派遣依頼件数第1位は常にスペイン語でした。2014年度には中国語がスペイン語を抜き第1位になりました。2016年度は第2位の英語にかなりの差をつけての第1位でした。そして2017年度には英語が中国語を抜き第1位に。その理由は中国語の依頼の多かったある医療機関が中国語通訳を自院で雇用し、依頼が大幅に減少したことです。

現在、派遣に苦慮しているのはタガログ語、ベトナム語、カンボジア語、ネパール語で、特にネパール語はなかなか依頼にこたえられない状況が続いています。

2002年度	5言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語）
2003年度	7言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、英語）
2005年度	10言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、英語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語）
2013年度	11言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、英語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、ロシア語）
2014年度	12言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、英語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、ロシア語、フランス語）
2018年度	13言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、英語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、ロシア語、フランス語、ネパール語）

下のグラフは、医療通訳派遣システム事業のみの派遣件数です。



言語別医療通訳スタッフ登録数

神奈川県医療通訳派遣システムでは、医療通訳スタッフは1年毎の更新による登録制です。年度末が近づくとMIC かながわ事務局から更新 伺いの手紙を登録者に送り、登録者は次年度引き続き通訳活動が可能かどうかを返信します。

前出の「在住外国人医療サービスに関する調査研究」結果から見た課題 2. 医療通訳スタッフのレベル維持と向上 について、登録スタッフ全員のレベルの均一化というのは、なかなか難しいものがありました。言語による違いもあります。学習するための資料が豊富な言語、資料を探すのが難しい言語。しかし、インターネット等の進化によって20年前よりははるかに知識や情報は手に入れやすくなってきています。

医療通訳派遣システム事業では、登録した医療通訳スタッフに1年に3回の現任者研修への参加を義務付けており、医療に関する知識等を得る場を提供しています。自主勉強会を開催している言語もあります。レベル維持や向上に医療通訳スタッフ 自らの努力が求められています。

各年度、養成研修後の登録者数

言語 年度	中国語	スペイン語	ポルトガル語	韓国・朝鮮語	タガログ語	タイ語	英語	ベトナム語	カンボジア語	ラオス語	ロシア語	フランス語	ネパール語	合計
2002	5	12	7	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	35
2003	15	22	14	8	5	7	7	-	-	-	-	-	-	78
2004	23	33	18	10	6	6	12	-	-	-	-	-	-	113
2005	24	44	22	13	8	8	14	2	4	1	-	-	-	140
2006	23	49	24	11	9	8	12	2	5	2	-	-	-	145
2007	26	53	33	12	9	11	19	4	6	2	-	-	-	175
2008	25	52	28	11	11	10	23	5	5	2	-	-	-	172
2009	29	52	27	11	8	7	24	8	3	2	-	-	-	171
2010	32	53	28	9	14	9	26	10	4	2	-	-	-	187
2011	32	50	29	8	13	9	27	10	3	2	-	-	-	183
2012	32	45	33	7	13	11	26	11	3	2	5	-	-	183
2013	30	41	28	5	9	9	24	7	2	2	5	-	-	157
2014	38	44	27	8	12	13	31	8	2	1	5	1	-	189
2015	37	43	25	8	12	12	33	9	2	1	5	1	-	188
2016	37	47	26	8	15	12	38	14	2	1	8	1	-	209
2017	41	41	22	8	13	13	37	15	2	1	7	4	-	204
2018	38	42	21	7	9	13	41	17	2	1	7	4	2	204
2019	46	42	19	6	9	12	44	17	2	1	6	4	4	212
2020	43	44	24	6	9	12	41	20	2	1	5	4	4	215
2021	38	45	24	5	8	12	38	19	2	1	4	6	4	206
2022	38	41	22	5	7	14	33	18	1	1	5	6	3	194

医療通訳ボランティア養成研修

2002年度は、かながわ外国籍県民医療通訳サービス支援モデル事業の開始（2002年8月）にあたって、対象者への研修が行われました。対象言語は、中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語の5言語で、一般公募はせず、主に既に医療通訳として活動している人々に声をかけ、モデル事業に参加する形でした。

2003年度は、初めて公募による医療通訳ボランティアの研修を行いました。募集言語は、モデル事業の5言語にタイ語と英語を加え7言語でした。応募総数は、なんと、254人。その中から書類選考を行

い、89人が研修に参加しました。

2004年度は、公募ではなく前年度に応募して惜しくも登録に至らなかった人や県内の国際交流ラウンジなどからの紹介者を対象に、養成研修を行いました。

2005年度から現在までは、『県のたより』に募集案内を掲載し公募を行っています。

今後の展望

年度別派遣実績の表でも一目瞭然のように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が与えた影響はとても大きなものでした。感染を恐れて患者が受診を控えるということもあったでしょう。また、医療機関が感染拡大防止対策として対面通訳から民間の電話や画像を利用した遠隔通訳を利用し始めたことも理由のひとつでした。

この遠隔通訳は、コロナ禍が過ぎたとしても医療通訳の分野で便利なツールとして利用され続けるでしょう。対面通訳の難点である「今すぐ通訳してほしい」「夜間や休日でもすぐに通訳が必要」という部分をカバーできるからです。一方、この3年間で対面通訳の利点もしっかり見えてきました。患者と医療者の信頼関係をつくることにおいても、その場にいる医療通訳スタッフの存在が一役を担っていることが、医療機関側にも認識されています。

対面通訳の良さをさらに高めていくには、医療通訳スタッフのレベルの維持向上を図ることが大切であり、ボランティアであっても責任をもって通訳活動を行う高い意識をもつことが大切です。MICかながわに求められていることは、人材育成に力を注いでいくことであると考えています。



日常生活の何かがちょっと変わると健康に関する数値も変わります。

「良くなったのは日本食にしたからかなあ」と言う患者さん。

通訳スタッフは興味津々です。「どんな日本食ですか」「カレーのルーを○&○にしたんだよ」「………」確かに日本食……？

MICちゃん 19



おすすめしたい本・映画

会員からのおすすめの本や映画をご紹介します。

毎日新聞の日曜版のコラム、心療内科医海原純子先生の「新・心のサプリメント」が好きでよく読んでいますが、その中で紹介された本です。

筆者は外資系の銀行に就職し、スペインでの支店開設のため、スペイン語の語学・業務研修生に選ばれ（実は著者の第二外国語はフランス語ですが「おんなじようなものだろう」と?!）そこでマドリードからバルセロナの語学学校に派遣され、そこで不思議な言語「カタルーニャ語」に出会います。

はじめは方言のようなものだと思っていたのが、とても奥深いものであると知り、その世界にはまっていきます。辞書の編纂、翻訳授業etc. カタルーニャ語と日本語の架け橋を創り、カタルーニャと日本で数々の名誉ある賞を受けます。



でもこれは単なるサクセスストーリーではありません。全体を流れる筆者の気負いのない、あくまで「好きなもの」を追い求める視点が清々しく（実際にはなみなみならぬ努力があったと思いますが）自分でも「好きなもの」を追い求めていこうとする前向きな気持ちが起こってきます。

最後が思いがけない展開で終わりますが、それはそれで感動します。

フランコ独裁政権に弾圧され消されようとしながら（世界に、日本にも同じような例がありましたね）誇り高く生きてきたことばの社会的な背景、文化、言語としての興味。志を同じくするパートナーと6歳と3歳の日本語もまだ自分のものになっていない息子たちとの外国生活。周りの人たちとの関り。どの切り口からでも興味深いものです。

スペイン語の通訳さんはもちろん、「好きなもの」を追い求めている、あるいは追い求めたい方々におすすめです。

つるたみつこ
鶴田光子

会員の皆さんからのおすすめの本や映画の紹介をお待ちしております。

事務局からのお知らせとお願い

MIC かながわは Twitter や Facebook で情報を発信しています。

Twitter のアカウント @MIC_Kanagawa

Facebook ページ www.facebook.com/Mickanagawa

Twitter や Facebook にアカウントをお持ちの方は、MIC かながわの活動や情報が、より多くの方に伝わるようご協力をお願いします。



～書き損じハガキを寄付してください～

もし、ご家庭に書き損じ郵便ハガキや未使用切手が眠っていましたら、ご寄付をお願いします。事務所に送りいただくか、研修等でお会いできる機会があれば事務局スタッフにお渡しください。事務局での業務に利用させていただきます。ご協力よろしく申し上げます。

- 7月7日 (木) 北里大学看護学部総合看護実習
対応：矢島 Co.・英語通訳、嶋崎中国語通訳、バルガス事務局スタッフ、青木事務局スタッフ、飯島事務局スタッフ、草間中国語通訳・事務局長
- 7月13日 (水) 一般通訳協力者専門研修「生活保護について」
- 7月23日 (土) 第1回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修 (Zoom)
- 7月25日 (月) コーディネーター研修 (Zoom)
- 7月26日 (火) 医療通訳派遣システム事業運営委員会部会
- 8月16日 (火) 一般通訳フランス語ロールプレイ研修 (Zoom)
- 8月17日 (水) 医療通訳派遣システム事業運営委員会本会
- 8月20日 (土) MIC かながわ 20 周年記念イベント (オンライン)
- 8月28日 (日) 日本会議通訳者協会「日本通訳フォーラム 2022」 (オンライン)
講師派遣：松野理事長
- 9月4日 (日) 群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課『医療通訳ボランティアスキルアップ講座』 講師派遣：岩本理事・ポルトガル語通訳
- 9月8日 (木) 2022 年度医療通訳ボランティア養成研修第1日目
- 9月10日 (土) メディフォン「医療機関における 0JT 研修システムを確立することで医療通訳の質の向上を図り、外国人患者の安心安全な共生社会を目指す」事務局オンラインワークショップ パネリスト：岩本理事・ポルトガル語通訳
- 9月15日 (金) 2022 年度医療通訳ボランティア養成研修第2日目
- 9月17日 (土) CHARM 医療通訳研修「医療通訳者の役割」 (Zoom)
ファシリテーター・講師派遣：岩本理事・ポルトガル語通訳
- 9月27日 (火) 一般通訳協力者研修専門研修「在留資格について」
- 10月8日 (土) 2022 年度医療通訳ボランティア養成研修第3日目
- 10月15日 (土) 2022 年度医療通訳ボランティア養成研修第4日目
- 10月27日 (木) JICA オンライン・セミナー「多文化共生・日本社会を考える」第14回「医療通訳の現場から」 登壇者：岩本理事・ポルトガル語通訳
- 10月29日 (水) 神奈川県社会福祉協議会「多文化高齢社会ネットかながわ第2回県民講座」 (オンライン) 講師派遣：松野理事長
- 11月6日 (日) 外国人無料健康相談会 於：カトリック藤沢教会
- 11月7日 (月) 新任医療通訳スタッフオリエンテーション
- 11月12日 (土) 第2回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修
- 11月27日 (日) 群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課『医療通訳ボランティア養成講座』 講師派遣：鈴木万里子英語通訳
- 12月4日 (日) 群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課『医療通訳ボランティア養成講座』 講師派遣：鈴木万里子英語通訳
- 12月4日 (日) 浜松国際交流協会「通訳者の技法について」
講師派遣：田中理事・Co.・英語通訳
- 12月10日 (土) 多言語支援センター コミュニティ通訳養成講座第1日目
- 12月11日 (日) 群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課『医療通訳ボランティア養成講座』 講師派遣：鈴木万里子英語通訳
- 12月15日 (木) 神奈川県消防学校専科教育救急科教育訓練『外国語』
講師派遣：星中国語通訳、ヒューバート会員、バルガス会員
- 12月15日 (木) 医療通訳スタッフフォローアップ研修 (Zoom)
- 12月20日 (火) 一般通訳協力者基礎研修 (Zoom)

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、
準備段階を含め多くのイベントはオンライン（Zoom）
による開催としていましたが、状況を見ながら対面
での研修が開催されるようになりました。

MICのイベント（報告）

●一般通訳協力者研修（専門）（オンライン）＜多言語支援センターかながわ研修＞

日時：7月13日（水）15：00～16：30 ＜オンライン＞

テーマ：生活保護について役立つ基礎知識

講師：神奈川県福祉局生活援護課 高橋亮氏

体験談：MIC かながわタイ語通訳スタッフ 鈴木久美子氏

参加者：59人（13言語）

生活保護に関する通訳依頼はそれほど多くありませんが、制度が複雑です。そのため、できるだけスムーズに通訳ができるよう、基礎的な知識を学ぶ機会を設けています。

生活保護を利用するときの注意、保護利用中の権利と義務、病院へのかかり方、保護開始決定時の手続き等について、講師から利用する人が持つ『生活保護のしおり』に基づいたわかりやすい説明がありました。

通訳体験談では、今回の参加者は生活保護に関する通訳経験のない方がほとんどだったため、準備段階から含め、具体的なイメージを持つことができたのではないかと思います。講師からも、通訳の体験談はとても参考になったとのことがありました。

参加者から寄せられた感想の一部を紹介します。

- 講師のお話はソフトな感じでしたが、通訳体験談は私が体験したものと近く、現場は結構ハードだと感じています。
- 講師のご説明は、とても理解しやすかったです。また通訳者の体験談は、流れを把握する上でとても参考になりました。
- お話を聞いて、生活保護が厳しいものではなく、困窮している人を援助するものだと実感しました。
- 上から目線のスタンスではなく、公平な目線で伝えてほしいという講師のことばが印象に残りました。
- 出ることばが難しいです。行政用語を学ぶ必要があると感じました。
- 生活保護のしおりに書いてある内容について充分理解し、通訳できるよう準備する必要性を改めて感じました。

●第1回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修（オンライン）

日時：7月23日（土）13：30～15：30

内容：①麻酔科について 講師：東京慈恵会医科大学付属病院麻酔科医師 近江禎子氏

②個人情報について 事務局より

③事務局からのお知らせ

参加者：121人

ありよし さわ こ しょうせつ えが え ど じだい いがくしゃ はなおかせいしゅう せかい はじ ぜんしん
有吉佐和子の小説で描かれドラマにもなった江戸時代の医学者・華岡青洲は、世界で初めて全身
ますい つか げ か しゅじゅつ せいこう い し はなおかせいしゅう ますいやく
麻酔を使って外科手術に成功した医師であること、華岡青洲が麻酔薬としてチョウセンアサガオを
つか にほんますいかがつかい もち しょうかい こうぎ はじ
使ったことから日本麻酔学会のシンボルに用いられているとの紹介から講義が始まりました。

きそてき ますい しゅるい ほうほう ますいやく しゅるい きじょ ほうかてき せつめい
基礎的なことから麻酔の種類、方法、麻酔薬の種類、機序など包括的に説明していただき、たくさん
しやしん どうが しかくじょうほう てんてき きゆうにゆうますい きかんそうかん こうまくがいますい あんぜんかくにん じっさい
の写真、動画など視覚情報により、点滴・吸入麻酔、気管挿管、硬膜外麻酔、安全確認など、実際に
しゅじゅつしつ おこな しゅじゅつまえ かんじや がつべいしゅう せつめい
手術室でどんなことが行われるかイメージがつかめました。手術前に患者に合併症の説明をしたり、
きおうしょう しつもん こんきょ りかい
既往症などについて質問したりする根拠もよく理解できました。

かんぞう ぶんかいこうそ かんじゆ さけ の ひと の ひと ますい き
肝臓の分解酵素が関係しているの、人種によって、あるいはお酒を飲む人、飲まない人で麻酔の効
かた ちが きょうみぶか はなし
き方が違ってくるとい興味深い話がありました。

こうぎご ますいやく てきせいりょう き むつうぶんべん わつうぶんべん ちが かつぱつ
講義後、「麻酔薬の適正量をどのように決めるのか」、「無痛分娩と和通分娩の違いは」など活発に
しつぎおうとう おこな
質疑応答が行われました。

つうやくげんば じゅつぜんせつめい せつ いがい し きかい ますい かい しごと ますい かい しごと
通訳現場では術前説明で接する以外に知る機会のない麻酔科医の仕事ですが、麻酔科医の仕事は
しゅじゅつしつがわ かんわ そうさ たき しょうかい いりょうつうやく
手術以外に緩和ケアやエクモの操作まで多岐にわたることの紹介がありました。医療通訳スタッフに
ますい かい ますい かい みちか かん こうぎ
とっては麻酔科と麻酔科医をより身近に感じられるようになった講義でした。

●一般通訳協力者研修（専門）（オンライン）＜多言語支援センターかながわ研修＞

にちじ
日時：9月27日（火）15：00～16：30 <オンライン>

テーマ：在留資格についての基礎知識

こうし ぎょうせいしよし みのぐちほうかし
講師：行政書士 美濃口峰華氏

さんかしゃ にん げんご
参加者：60人（13言語）

いっばんつうやく かつどう ざいりゅうしかく はなし ちゅうしん つうやく こうこう さんしやめんだん
一般通訳の活動では、在留資格が話の中心となる通訳はめったにありませんが、高校での三者面談
じどうそうだんじょ つうやく ざいりゅうしかく わだい
や児童相談所での通訳などで在留資格が話題になることがあります。そのため、今回は特に子どもに
かん ざいりゅうしかく ちゅうしん こうぎ
関する在留資格を中心とした講義でした。

こうし ざいりゅうしかく ちが ざいりゅうしかく しゅるい ざいりゅう みかた つづ み
講師からは、在留資格とビザの違い、在留資格の種類、在留カードの見方に続いて、よく見られる
ざいりゅうしかく えいじゅうしや ていじゅうしや ぎじゅつ じんぶんちしき こくさいぎょうむ ぎのう せつめい こ
在留資格として、「永住者」「定住者」「技術・人文知識・国際業務」「技能」などの説明、子どもに
おお ざいりゅうしかく かぞくたいざい せつめい
多い在留資格として「家族滞在」の説明がありました。

とく った かぞくたいざい しかく こうこう そつぎょう はたら
特に伝えたいこととして、「家族滞在の資格のままでは、たとえ高校を卒業してもフルタイムで働
くことができないが、新しい制度により、条件を満たせばフルタイムで働ける『定住者』や『特定
かつどう しかく か こうこう そつぎょう そつぎょう
活動』の資格に変えることができる。そのため、がんばって高校を卒業してほしいし、卒業するよう
はげ はなし
励ましてほしい」という話がありました。

こうし せんせいじしん ぎょうせいしよし まえ ちゅうごくご かんこく ちょうせんご つうやく おお けいけん
また、講師の先生自身が、行政書士になる前から中国語、韓国・朝鮮語の通訳を多く経験している
ことから、学校の保護者面談での経験談を聞くことができました。

さんかしゃ よ かんそう いちぶ しょうかい
参加者から寄せられた感想の一部を紹介しします。

● 高校の入学手続き、三者面談などでは在留資格に関する話が出ることもあり、時には通訳に戸惑う
こともあった。今日は在留資格につき総合的に説明いただき有益だった。

● 特に高校卒業による在留資格の変更という新しい制度について知ることができ、希望が持てた。

めいかく せつめい ふくざつ しく りかい
明確な説明で複雑な仕組みが理解できた。

● 実際に関わられた事例を興味深く聴いた。

- とても分かりやすい資料に基づいての説明だったので、理解しやすかった。
- 特定活動についても、いろいろなものがあって、実際にはパスポートを確認しなければならないなど、知らなかったことを学ぶことができた。
- 何となく知っていたつもりのことを正しく理解できたので、とてもよかった。

●2022 年度医療通訳ボランティア養成研修

今年度は、中国語、タガログ語、ベトナム語、カンボジア語、ネパール語の 5 言語で募集を行いました。タガログ語、カンボジア語、ネパール語での応募がなく、急きよタイ語とロシア語を追加募集しました。

応募総数33人。書類選考および事前面接選考(中国語のみ)を経て、21 人が養成研修に参加しました。最終的な登録者は10人(中国語4人、タイ語3人、ベトナム語2人、ロシア語1人)でした。11月7日(月)のオリエンテーションで神奈川県(かながわ医療通訳派遣システム自治体推進協議会)より委嘱状が交付され、2回の研修派遣を行った後、いよいよ医療通訳スタッフとしての通訳活動が始まりました。

日程	会場	内容
9月8日(木)	神奈川県職員 キャリア開発 支援センター	<p>①開講の挨拶 (MIC かながわ理事長 松野勝民氏)</p> <p>②神奈川県医療通訳派遣システム事業の概要 (神奈川県国際文化観光局国際課 佐藤敬子氏)</p> <p>③MIC かながわについて (MIC かながわ理事長 松野勝民氏)</p> <p>④医療通訳の心得/⑤医療の基礎知識 (MIC かながわ理事・港町診療所医師 沢田貴志氏)</p> <p>⑥通訳技術の基礎 (MIC かながわ中国語医療通訳スタッフ 佐藤ペティー氏)</p> <p>⑦多文化共生について (立教大学大学院特任准教授 金迅野氏)</p>
9月16日(金)	かながわ県民 センター 会議室	<p>①病院での個人情報保護と対人援助スキル (県立がんセンターソーシャルワーカー 緒方文子氏)</p> <p>②医療通訳の現場から (MIC かながわ中国語医療通訳スタッフ 篠崎知恵氏・同ベトナム語医療通訳スタッフ 川下ホア氏)</p> <p>③医療機関の仕組み・医療制度 (汐見台病院ソーシャルワーカー 岩田靖美氏)</p> <p>④これからの活動のために ~神奈川県に暮らす外国人と役に立 つ社会資源~ (かながわ国際交流財団 藤分治紀氏)</p> <p>⑤筆記テスト</p>
10月8日(土)	神奈川県職員 キャリア開発 支援センター	<p>言語別通訳演習</p> <p>各言語に講師、母語話者(患者や家族)役、日本人(医療者)役、 スーパーバイザーを配置。受講者は通訳として参加し、シナリオ に沿ってロールプレイを実施。</p>

4	10月15日(土)	かながわけんしよくいん 神奈川県職員 キャリア開発 支援センター	げんごべつつうやくえんしゅう せんこうめんせつ 言語別通訳演習・選考面接 ぜんかい ひ つづ えんしゅう おこな あと こべつ めんせつ つうやくじつぎ かつどう 前回に引き続き演習を行った後、個別に面接(通訳実技・活動 かのうじょうきょう き と どう おこな どうがい とうろく 可能状況の聞き取り等)を行い、当該システムへの登録につ いて選考。
5	11月7日(月)	かながわけんみん かながわ県民 センター 研修室	いりょうつうやく しんきとうろくしやたいしやう オリエンテーション(医療通訳スタッフ新規登録者対象) いしよくじやう なふだ みぶんしやうめいしやう ほけんかにゆうしやしやう 委嘱状、名札、身分証明書、ボランティア保険加入者証の う と いりょうつうやくはけん じぎやう がいやう つうやくかつどう かん 受け取り/医療通訳派遣システム事業の概要や通訳活動に関す る注意事項等の説明/コーディネーターとの意見交換

いりょうつうやく げんにんしやけんしゅう
●第2回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修

日時： 11月12日(土) 13:50:~16:30

かいじやう よこはましじゆうかいかん
会場： 横浜市 従会館

ないやう ① 講義「最近の精神科医療通訳の問題点と課題」
こうし よつや いんちやう いし あべゆうし
講師： 四谷ゆいクリニック院長・医師 阿部裕氏
② 事務局からのお知らせ

さんかしゃ
参加者： 112人



こんかい かいじやう あつ たいめん こうぎ ごかん つう つた さんかしゃ はんのう
今回は会場に集まっての対面の講義。やはり五感すべてを通じて伝わるものがあり、参加者の反応な
ども含め得られる情報量の違いを感じました。

よく見られる精神科の症状から始まり、日本の精神医療に関連する法律の変遷、またクリニックに
がいこくじんかんじや おお とくちやう もんだいてん せつめい げんご ぶんか もんたい せいしんか
外国人患者の多いことから、その特徴、問題点などの説明がありました。言語と文化の問題から精神科
いりやう う せいげんてき なか いりょうつうやく やくわり じゆうやう せいしんかどくゆう むずか かん
医療を受けることが制限的である中、医療通訳の役割は重要であり、また精神科特有の難しさも感じ
ました。

つうやくしや つうやく きほん ちゆうりつ くず かんじやういにゆう よ そ たいど も かんじや
通訳者は、通訳の基本である中立は崩さず、感情移入してはいけませんが寄り添う態度も持ち、患者
を不安にさせることなく、過不足ない通訳が求められています。しかし、辻褄があっていてもその
まま訳すということは、意図を把握するために予測をしながら通訳する者としても、不安を感じる一因
となります。

さいしゆうてき つうやくしや あんしん いりやうじゆうじしや いしそつう かんけい だいじ さんしや
最終的には通訳者が安心して医療従事者との意思疎通ができる関係が大事であり、それには三者が
あんしん ばづく きほん べめん い りかい
安心できる場作りが基本となるのでしょうか。どの場面でも言えることですが、理解できないことがあ
ったとき、ちょっとしたためらいから聞き返すことなく、それが原因で悲しい結末となることもあり得る
せかい あらた つうやくしや やくわり おも にんしき さんかいはりやうつうやく
世界です。改めて通訳者としての役割の重さを認識させられました。(参加医療通訳スタッフMさん)

きしやうげんご つうやくやうせいけんしゅう たげんごしえん けんしゅう
●希少言語コミュニティ通訳養成研修 <多言語支援センターかながわ研修>

にちじ だい にちめ ど
日時： 第1日目 12月10日(土)

かいじやう けんみん かい きやうやうけんしゅうしつ
会場： かながわ県民センター 15階 共用研修室

ないやう
内容：

① 医療通訳の基礎
こうし みなとまちしんりやうじよ じよさんし たけだちひろし
講師： 港町診療所 助産師 竹田千尋氏

② コミュニティ通訳の基礎
こうし つうやく りじ つうやく いわもとやよいし
講師： MIC かながわ理事・ポルトガル語通訳 岩本弥生氏



参加者：12人（カンボジア語5人、タガログ語5人、ベトナム語2人）

多言語支援センターかながわでは、通訳ボランティアの登録者が不足している言語のコミュニティ通訳を養成する研修会を毎年行っています。今年度もMICかながわが企画・運営を担当しています。

前半、助産師の竹田千尋さんに、体の仕組みや日本で医療機関を利用するとき気を付けること、産婦人科での通訳などについてのお話していただきました。竹田さんはふだんから外国人の患者さんとたくさん接しているため、現実的なアドバイスをしていただけたと思います。特に産婦人科の話には、みなさん興味を持ったようでした。

後半は、通訳の基礎的な技術について。コミュニティ通訳とは何か、通訳するとき特に気を付ける基本は「足さない、引かない、変えない」であること、対人援助などについて、MICかながわポルトガル語通訳スタッフの岩本弥生さんが説明しました。

第2日目の言語別ロールプレイは1月に行います。

医療通訳スタッフフォローアップ研修（オンライン）

日時：12月15日（木）15:00~16:30

参加者：5人

フォローアップ研修は、基本的に医療通訳スタッフとして登録後1年経った人を対象に行っています。通訳活動を通しての困ったことや疑問等を話すことができ、他の人の経験を聞くことができる機会です。今後の通訳活動に活かしてもらえるように、アドバイザーが必要に応じて助言をします。

場数を踏むことで対処できるようになったことへの実感。待ち時間などでの患者さんとの距離の取り方や日頃の勉強法、使用しているアプリについての情報交換。文書への対応の仕方の再確認等、有益な時間となりました。

一般通訳協力者基礎研修（オンライン）

日時：12月20日（火）15:00~16:40

内容：① コミュニティ通訳の基礎、通訳技術

講師：MICかながわ理事・コーディネーター・英語通訳 田中圭氏

② 通訳体験談

発表者：MICかながわタガログ語・英語通訳 薄井次郎氏

③ 派遣システムについて（事務局）

参加者：12人

今年度の新規登録者が参加し、コミュニティ通訳とはどういうものか学びました。通訳体験談を聴いたり、通訳の練習も体験して、限られた時間ですが密度の濃い研修となりました。

参加者からは「とても役に立つ内容」「現場の様子が想像しやすい体験談をシェアしていただき、ありがたい」「講師の先生のような落ち着いたトーンで寄り添ってあげられたら、と思った」等の感想が寄せられました。

MICかながわの20年 ～そして未来へ

MICかながわ設立20周年記念オンラインイベント

2022年8月20日(土)12:30～15:30
開催方法:ウェビナー/参加費:無料

MICかながわは今年設立20周年を迎えました。節目の記念事業として、これまでの歩みを振り返り、未来へと繋げていけるようなオンラインイベントを企画しました。たくさんの方々の参加をお待ちしております。

プログラム

- 12:35-13:25: 基調講演「多文化共生社会の中の医療通訳」
田村太郎さん(ダイバーシティ研究所代表理事)
- 13:25-14:55: 座談会「20年の歩みを振り返る」
MICかながわに長く関わってこられた方々
- 14:55-15:10: 新型コロナウィルスクイズ
～沢田貴志先生のワンポイント解説付き～
- 15:10-15:15: 所感「鶴の一声」
鶴田光子さん(MICかながわ前理事長)

主催: MICかながわ20周年記念事業実行委員会
問い合わせ: 20th_anniv.p@gmail.com
参加申し込み:
<https://forms.gle/vHfazP8o7rh3oBQSA>
またはQRコードから→
申し込み締め切り: 8月13日(土) 申し込みフォーム

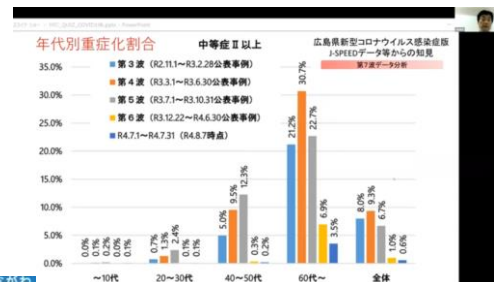
一般財団法人ダイバーシティ研究所
代表理事 田村 太郎

Diversity =
Energy for
Community and
Organization

MICかながわ 20周年記念事業実行委員会
主催のオンラインイベントが8月20日(土)
に開催されました。
実行委員としてイベント開催に労をとっ
てくださった矢島行子さん、岩本弥生さん、
草間久美さん、ありがとうございました。

<写真上から>

司会; 田中圭氏 (MICかながわ理事)
開会の挨拶: 松野勝民氏 (MICかながわ理事長)
基調講演: 田村太郎氏
(ダイバーシティ研究所代表理事)
座談会司会: 高橋元央氏 (MICかながわ監事)
座談会参加者:
豊島勝昭氏 (県立こども医療センター医師)
手塚順子氏 (川崎市立川崎病院 MSW)
松野勝民氏 (MICかながわ理事長)
早川寛氏 (MICかながわ副理事長)
西村明夫氏 (日本公共通訳支援協会代表理事、
元MICかながわプログラムアドバイザー)
鈴木クリスティーナ氏 (MICかながわポルトガル語通訳)
内藤まゆみ氏 (MICかながわタイ語通訳)
クイズコーナー: 沢田貴志氏 (MICかながわ理事)
鶴の一声: 鶴田光子氏 (MICかながわ前理事長)
閉会の挨拶: 佐藤ペティー氏 (MICかながわ副理事長)



MICかながわ



げんごべつじしゅべんきょうかいじょうほう ほうこく
言語別自主勉強会情報(報告)

かいさいぶん
2022年7月~12月開催分

げんご 言語グループ	にち 日 時	かい 場	ない 内容
ちゅうごくご 中国語	7/9(土)10:00~12:00	かながわ県民 センター	しきゅう 子宮がんについて(体験談) / 基礎演習
	10/22(土)13:00~16:00	かながわ県民 センター	こうぎ 講義「漢方薬について」講師: 喩静(横浜薬科 だいがくかんぼうやくがつか かんぼうやくぶつがくけんしゅうしつきょうじゆ 大学漢方薬学科・漢方薬物学研修室教授) / 基礎演習リプロダクション
	12/17(土) 10:00~12:00	かながわ県民 センター	りやうだいけつかんうしつ きししやう 両大血管右室起始症について / 基礎演習単語 リスト答え合わせ / 事例検討
スペイン語	9/10(土)14:00~15:30	かながわ県民 センター	かれい ともな ぞうか ほんないしやう 加齢に伴い増加する白内障について / 意見 交換 / ロールプレイ
	12/3(土)14:00~15:30	かながわ県民 センター	めまいとは / めまいの原因疾患 / 耳 / 事例検討 (小脳梗塞、起立性調節障害、良性発作性頭 位めまい症)
ポルトガル語	7/24(日)10:00~13:00	鶴見国際交流 ラウンジ	じれいけんとう じやうほうこうかん いけんこうかんおよ づうやくじ 事例検討・情報交換 / 意見交換及び通訳時に 役立つ情報や表現の共有
	10/1(土)13:00~16:30	Zoom	じれいけんとう こま きやうゆう たいさくかくにん 事例検討 / 困ったことなどの共有・対策確認 / 意見交換・現状報告
	12/3(土)13:30~16:30	Zoom	じれいけんとう こま きやうゆう たいさくかくにん 事例検討 / 困ったことなどの共有・対策確認 / 意見交換・現状報告
タイ語	8/6(土)15:30~17:00	Zoom	しきゅうげい じれいけんとう 子宮頸がん HPV / 事例検討
	10/23(日)15:30~17:00	Zoom	ぼうこうえん じれいけんとう 膀胱炎について / 事例検討
	12/24(土)15:30~17:00	Zoom	じへいしやう じれいけんとう 自閉症について / 事例検討
英語	7/31(日)13:30~16:00	Zoom	みみ こうぞう きのう はな こうぞう きのう なんちやう じび 耳の構造と機能、鼻の構造と機能、難聴、耳鼻 いんこうか びやうき ふくびくうえん ちゆうじえん 咽喉科の病気(副鼻腔炎、中耳炎、メニエール びやう 病) / ロールプレイ
	9/24(土)13:30~15:30	Zoom	しょうにか せつしゆ にゆうじけんしん しょうにか 小児科の予防接種、乳幼児健診、小児科で使う オノマトペ、小児科の疾患(フォロー四徴症、 斜視、水頭症) / ロールプレイ
	11/26(土)13:30~16:00	Zoom / 西区 福祉保健活動 拠点フクシア	かんぞう けいたい きのう かんこうへん 肝臓の形態と機能、肝硬変、アルコール摂取と かんぞう かんぞう かんぞう 肝臓などの関わり / ロールプレイ

MIC かながわ事務局スタッフ募集!

けいりじむとう たんとう
経理事務等を担当してくれるスタッフを募集して
います。詳しくは、MIC かながわホームページをご
覧ください。

<https://mickanagawa.web.fc2.com/recruit.html>

MIC かながわ通訳コーディネーター募集!

つうやくはけん いらいもと とうろくつうやく
通訳派遣依頼元と登録通訳スタッフをつなぐ役割に
関心のある人、ご応募お待ちしております。
詳しくは、MIC かながわホームページをご覧ください。

<https://mickanagawa.web.fc2.com/20221213.html>

しゅげいぶ 手芸部だより

キャプテン、マネージャー、そしてセクレタリー3人で始まった手芸部ですが、ディレクターも登場、そして折々のビジターもあり、既に9年の歴史！を重ねてきました。バザーに参加する機会をいただいたことで、活動にリズムが付き、ひとつのチームとしての輪もできました。手芸はひとりでするものという考え方もありますが、もの作りの楽しさを共有できることも楽しいものです。

バザーの売上げの寄付のみでなく、本来のMICの活動にソフトな貢献ができることを期待しつつ、MICの余暇活動としてこれからも続いていくことを願っています。(y.t.)



MIC手芸部の活動が始まってもう10年！私が事務局に入った年(2011)は県とMIC独自事業の会計分離や消費税の遡及納付で大変でした。財政難対策のひとつとして翌年(2012)に藤沢教会バザーに出店したことが思い出されます。

MICにはたくさんの人材、バックグラウンドをもった方々がいらして不用品回収・手作り制作など、多大な協力を得て10万円を超える利益を出しました。手先が器用でお話し上手なみなさんに感嘆！言語を越えてワイワイ話しながら手作りする楽しさを継続しようと始まったのが手芸部でした。MICを離れた今も繋がってるなあと実感。

ぜひ皆さまも気軽に気晴らしにどうぞ。(n.s)



手芸部活動の9年間で色々なものを作り、バザーやイベントにも参加させていただき、時には親睦カラオケも企画しました。ひとつひとつの作品、イベントそれぞれの思い出を、案内チラシ「手芸部へのお誘い」を見て感慨深く振り返っています。写真やイラストの配置や色合い、季節感など工夫し、皆さんと楽しく集いたいという気持ちや、コロナ禍でも何とかしたいという気持ちを込めて作成したチラシも作品と言えるかもしれないなあと思っています。(k.k)

【始まり】

毎年MIC総会後の交流会で多くの仲間の隠し芸に触発されて、2013年に手芸愛好仲間と一緒に手芸部を立ち上げました。あっという間の9年間に手芸を通して手作りの喜びを分かち合いながら沢山の繋がりをいただきました。

【愉快的寄り道】

ご縁に恵まれてカトリック藤沢教会バザー出店に、英語通訳スタッフご指導の下で一日限りのクッキー焼き隊が作ったスノーボールや、タイ語通訳スタッフのタイ王国えびせんべいの完売御礼に多言語MICスタッフのチームワークが心強く、有難く思います。

これからも医療通訳の寄り道と一緒に手芸を楽しむ仲間が増えるよう願っております。(p.s)

ことばで支える ささ いのちとくらし

MIC かながわは認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。

寄付は所得税の寄付金控除、または税額控除、いずれか有利な方の適用を受けることができます。

また、神奈川県にお住まいの方は個人県民税の寄付金控除の適用も受けることができます。

会員はいつでも募集しています。ぜひ会員になって私たちの活動を支えてください。

へんしゅうこうき 編集後記

◆毎日窓の結露と闘う季節がまたやってきました。窓拭きで二の腕が細くなればと毎年思います。

(K. M)

◆人生は何事も為さぬにはあまりに長いが、何かを為すにはあまりに短い、とは山月記の中の一節だ。砂時計の残りを眺めるように、自分の残り時間を思うと、これまで何もしてこなかったような気がする。そして、今、目の前の時間にどれほど集中してこれたかは、心配性で考えすぎと言われてきた私には自信がない。今年ももうすぐ終わる。これからは未来でも過去でもない、今をしっかりと受け止めていきたい。(R. M)

◆コロナが生活の中に入ってきて早3年が経とうとしています。100年前のスペイン風邪は第3波までだったそうですが、今やコロナは第8波。早く「あの時は大変だったよね」と笑顔で話せる日がきますように…。(M. N)

2022年度の会費をお願いします。
会費は4月から翌年3月までの年度会費です。

●新規会員・継続会員の方

正会員：6,000円

個人賛助会員：1 □ 3,000円

団体賛助会員：1 □ 10,000円

(賛助会費は寄付扱いとなります)

【会費振込先】

みずほ銀行 横浜駅前支店

普通3819349

口座名義：トクヒ) タゲンゴシャカイリソースカナガワ

横浜銀行 横浜駅前支店

普通 3417718

口座名義：トクヒ) タゲンゴシャカイリソースカナガワ

郵便振替

口座：00270-2-55771

口座名称：MIC かながわ



みっく
MIC かながわ

特定非営利活動法人

多言語社会リソースかながわ

発行人 松野勝民

編集・発行 MIC かながわ事務局

〒221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

かながわ県民センター内

Tel: 045-314-3368

Fax: 045-342-7918

e-mail: mickanagawa@network.email.ne.jp

URL: http://mickanagawa.web.fc2.com/